

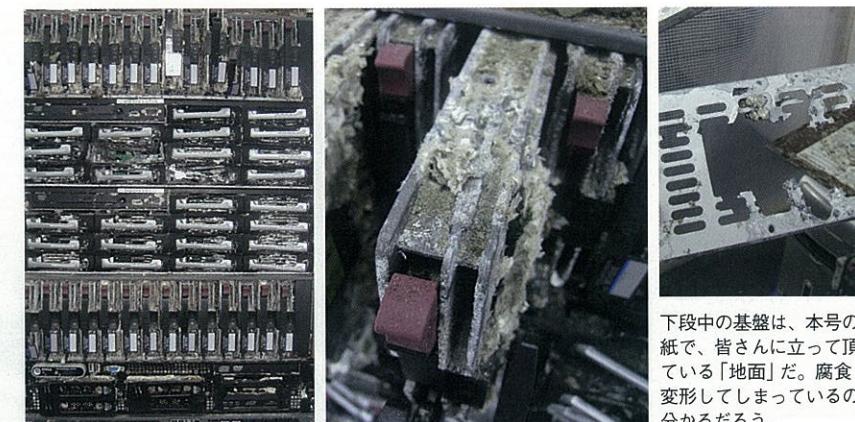
## Chapter 2 Salvage

# データ 救命がけで 出しだした



「こんな泥だらけのパソコンは見た事がない!」見れば誰しもそう口にするはず。正真正銘想定外。正にここまでの大惨状は想像もできなかった。だが現実に目の前にあるのだ。ここにも想定外では済まされない現実が。素人目にはゴミしか見えない。よもやそこからデータが救出せようとは、誰にも思えなかつたに違いない。(写真上)

下の写真は、海水により腐食してしまったサーバー、HDD、プラッターである。これらもどう考へてもデータ復旧は無理そうだ…。だが、この病院のサーバーの中には、患者の大手なカルテが収められている。なくなつたではすまなかつた。データサルベージではこれをも救つたのだ。



下段中の基盤は、本号の表紙で、皆さんに立って頂いている「地面」だ。腐食し、変形してしまっているのが分かるだろう。

**もはや想定外ではない。現実だ**

2年前に登場いただいた、仙台のRDVシステムズ、松本社長にお話を伺おう。かつての社屋は地震で壊滅的被害を受けた。が、ちょうど震災の数ヶ月前、都心部でも空き部屋があると聞き、移転したばかり。判断が遅ければ今こうして営業していられるか分からぬところだった。

「もう、凄いものでしたよ。復興なんてしまだ先の話です。大変ですよ。こつちは。揺れた時は東京で会議の最中でした。まさか地元仙台が震源地だとは思わなかつたですね」

会議でいざ本題に入ろうかというその時に揺れた。仙台には社員一人だけ残っていたが電話が繋がらない。心配した知人たちからはメールがたくさん飛んで来る……。カップ麺をひと月分買い求め、新潟経由で仙台へ。帰路には18時間を要した。

「私はいいですが、人によつては着のまま放り出され、雪まで降つたのだから堪りませんよね」

多賀城市で津波に遭遇した知人は、屋上で遺書を書き出したという。正に身着のまま放り出され、雪まで降つたのだから堪りませんよね」

「阪神大震災も見てきましたが、この津波による被害は比較になりません。それは着実に進んでいます。



以前のRDVシステムズの社屋。2階の全面ガラスが完全に割れ、室内は天井崩れ落ち、床もめくれ上がるという惨状だった。目前にある山が揺れたのだと言う。

物だけ売るのなら簡単だが、マナーがなっていないと社会に定着しない。仕組みづくりと社員教育が大切だと語る。全国にシェレッドマスターを146人抱える。

電気は被災の1週間後に通じたものの、ガスは来ない。「ひと月くらい風呂に入らなくても大丈夫だというのが分かりましたよ」と。

だが幸い、近隣の温泉宿が無料開放してくれたおかげで週末には家族を連れて行かれたのだと。

中では、ネットがさや価値を生むことに多くの人が気づいた。専売が、街が止まつていて。病院ではカルテが全部流されてしまった。怪我人、病人の診察もまならない。もはや想定外ではすまされない。嫌でもこれが現実なのだ。専売ティアに参加したい。テレビで見るだけ分かつた気になつてはいけないと確かにそつだ。自分で見て確かめないと、この震災の規模は分からぬ。そして可能ならばボランティアに参加して欲しい。「頑張ろう」ではない。被災者が頑張らずにすむよう、我々が動かなくては。

データ破損。通常であればともかく、今回は手を挙げる業者も人もほととぎす。

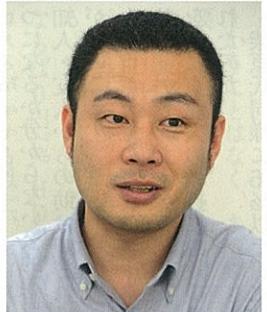
**バだ救わなければゴミ  
一とパソコンのサム**



店頭の貼紙。この、わずか3行の告知がきっかけで千台ものHDD、いや、千人

の想い出と財産が救われたのだ。

データ復旧の技術を活かして、本業であるデータ復旧の技術を活か



株式会社データサルベージ  
ソリューション  
相沢道男氏



株式会社データサルベージ  
コーポレーション  
代表取締役 阿部勇人氏

んどのなかつた。と言うよりも、海水に浸かり泥を被り、地面に叩き付けられたそのHDDが、よもや生きていようとは誰も思わなかつた。大切な大切な、かけがえのない家族の写真が納められたHDD。もつ、その中にしか存在しない連れ合い……。それらは消えてしまつた。諦めていたというのが正解だ。前ページの写真を見て頂けばそれが分かるはず。この状態からデータが救い出せるなどと、誰が思うだろうか? ところがだ。

不可能を可能にした男がいた。それが松本氏が賞賛される阿部氏である。生まれ育った地元がこんな状態になってしまった……。何か役に立つことができないだろうか

仙台に生まれ、今は東京にオフィスを構えるデータサルベージコー・ボレー・ションの阿部社長は胸を痛めた。結果的に、同社は夏までに千台のサーバーとパソコンを救つた。そうでなければゴミになつていたものだ。

「てんてこまいにして……」という言葉に大変さが忍ばれる。震災を知るとして、今では少し笑みもこぼれる。

「N HKに取り上げていただいてからがまた凄かつたんです。持ち込まれるのは一人一台ではなく10台20台。おそらく日本で一番ハードディスクを外したでしょう。しかし受付からサポートまで二人しかいないですからね」

合計3度掲載された記事と、テレビ各局での放映の反響は凄まじかつた。

仙台は海岸だけですから復興はまだ早いのですが、他の地区は酷いものです」セキュリティが切れてドアが開かないから立駐が動かないのに困りましたよ苦笑されるが、家ごと失つたよとかどうも立駐が動かないのだと。方々とは比べるべくもないのだとも。全国の拠点の管理のため、氏の出張は日常的だ。しかし空港も閉鎖したこの春は新幹線が復帰するまで東京まで出てから飛行機で各地へ出向かねばならなかつた。一方でオフィスには食料品や衣類が山積みに。農家では畑が海水に浸かったため、作物ができるない。食料品は重宝したようだ。

「何から手をつけてよいのやら分から

ない」という時に、後ほど登場いただく阿部氏から打診があった。「津波でデータをやられていると思うので、なにかできることはないだろうか。(私には)仲間が多いだろうか声をかけて頂けないだろうか」と言われるんです。僕はデータ復旧の必然性には気づかなかつたですよ」

会社ができた時から知つてはいたが、こんなことでもなければ絡むことはなかつたかもしれないと言う松本氏と阿部氏。一人とも仙台・東京を行つたり来たりで連絡もつき辛い中、Facebookが役に立つた。余談ながらテレビは東京目線、電話もままならぬ

